

現地情報

実需者が求める醸造用小麦・大豆の高品質安定生産を目指して

たつの市では、たつの市集落営農連絡協議会が中心となって、地元醤油醸造会社（以下、実需者）向けの原料用小麦、大豆を生産している。龍野農業改良普及センターは、協議会を中心にしたつの市、JA兵庫西、試験研究機関と連携し、実需者が求める高品質でタンパク質含量の高い小麦、大豆（以下、高タンパク小麦、大豆）の生産を目指して栽培技術の向上に取り組んでいる。

はじめに

龍野普及センターでは、集落営農組織を地域農業の担い手として支援している。2007年4月に「たつの市集落営農連絡協議会」が発足し、現在は、17集落営農組織が所属している。協議会は、水稻、小麦、大豆、土づくり、そばの5つの部会に分かれて活動している。そのうち小麦、大豆部会が、地元の実需者で利用される原材料の生産に取り組んでいる。

高品質の確保と安定生産を目指して

(1)組織をあげた栽培技術の向上

小麦、大豆部会は、高タンパク小麦、大豆を生産するために、定点ほ場を設置し、重要な管理作業の時期ごとに、生産者、関係機関、実需者が一緒になって現地巡回研修会を行い、栽培技術の向上を図っている（写真）。今年は、新たな取り組みとして、研修参加者に定点ほ場ごとに管理と生育状況について、研修参加者全員が5点満点で採点し、評価することにより関係者の見る目を養うようにした。



写真 栽培技術向上を目指した現地巡回研修会

(2)新たな課題解決のための新品種の導入

実需者から、これまで生産を進めてきた小麦品種「ふくほのか」に替わる、タンパク質含有率が安定して高い品種導入を要望された。

普及センターは、奨励品種決定現地調査ほ事業等を活用して、実需者の求める品質と生産者の求める収益性も考慮に入れながら優良品種の選定に取り組んでいる。

その結果、たつの市内の「ふくほのか」をタンパク質含有量の高い「ゆめちから」に全面的に切り替え、栽培面積は167haとなっている（図）。

今後の方針

高タンパク小麦、大豆の生産は、近年、気象変動が大きい中、実需者から求められる品質や収量性の確保が難しくなっている。今後も、生産者、実需者、JA、たつの市、県などが連携し、栽培技術などの課題解決を図りながら、生産振興を進めていきたい。

喜多 洋元（龍野農業改良普及センター）
（問い合わせ先 電話：0791-63-5174）

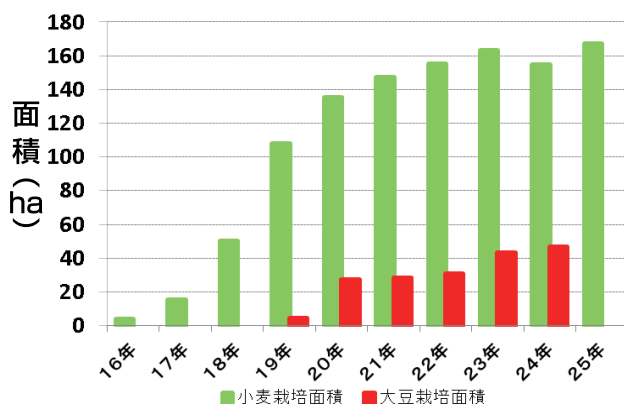


図 高タンパク小麦・大豆の栽培面積の推移

ひょうごの農林水産技術 No.183 (2013.11) ※本内容は、当センターホームページにも掲載

平成 25 年11月15日

兵庫県立農林水産技術総合センター (0790) 47-2408